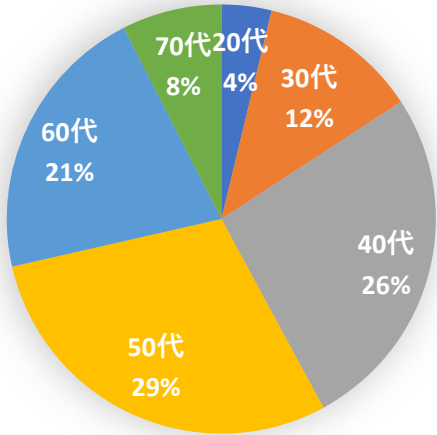


第115回日本循環器学会中国地方会
(2019年11月30日広島)

参加者の勤務生活実態及び
意向等に関する調査

配布数 496部, 回収数 133部(27%)

回答者背景
(Q1-6,8)



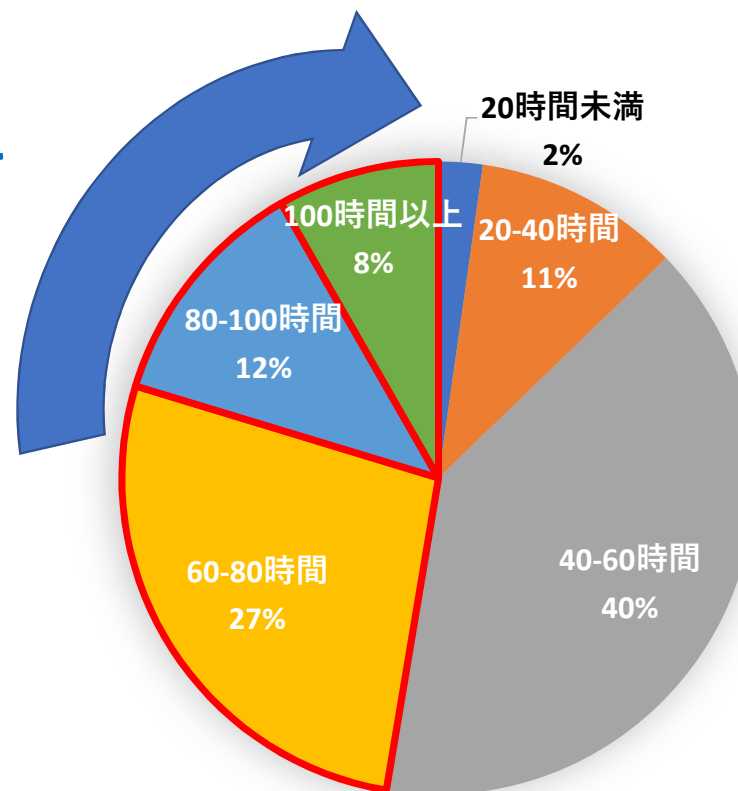
	全体 n=133	中国支部 1748人		全体 n=133
性別			専門分野	
男性	114(86%)	男性88%	循環器内科	119(89%)
女性	19(14%)	女性12%	循環器外科	7(5%)
			その他・無回答	7(5%)
平均年齢±SD (歳)	51.6±11.7	平均年齢49.5歳	勤務状況	
	25~76歳		常勤職	122(92%)
勤務先所在地			非常勤職	9(7%)
広島県	71(53%)	広島県610(35%)	育児休暇中	2(2%)
岡山県	24(18%)	岡山県483(28%)		
山口県	20(15%)	山口県366(21%)	主たる勤務先 (重複あり)	
鳥取県	8(6%)	鳥取県126(7%)	大学病院	25(19%)
島根県	5(4%)	島根県163(9%)	国公立自治体病院	35(26%)
その他	5(4%)		私立病院	41(31%)
			診療所	14(11%)
職種			その他の医療機関	9(7%)
医師	128(96%)		国公立研究機関	2(2%)
看護師	3(2%)			
その他・無回答	2(2%)			

勤務状況

Q7.1週間の実働時間（時間/週間） n=133

地域医療確保暫定特定水準越え
> 1860時間/年（> 36時間/週）

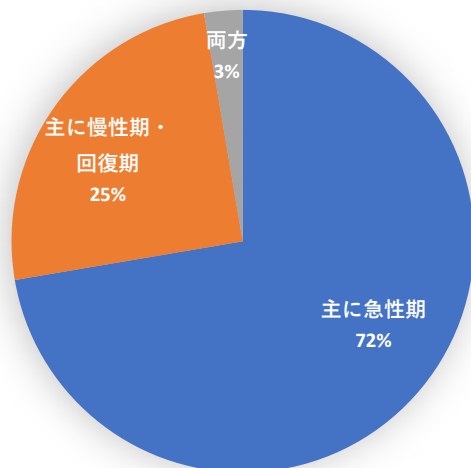
年間時間外労働>960時間/年
過労死ライン越え
47%



過労死ラインを超えている状況にある回答者が約半数、迅速に勤務状況を改善すべき状況にある回答者が1/4を占めた

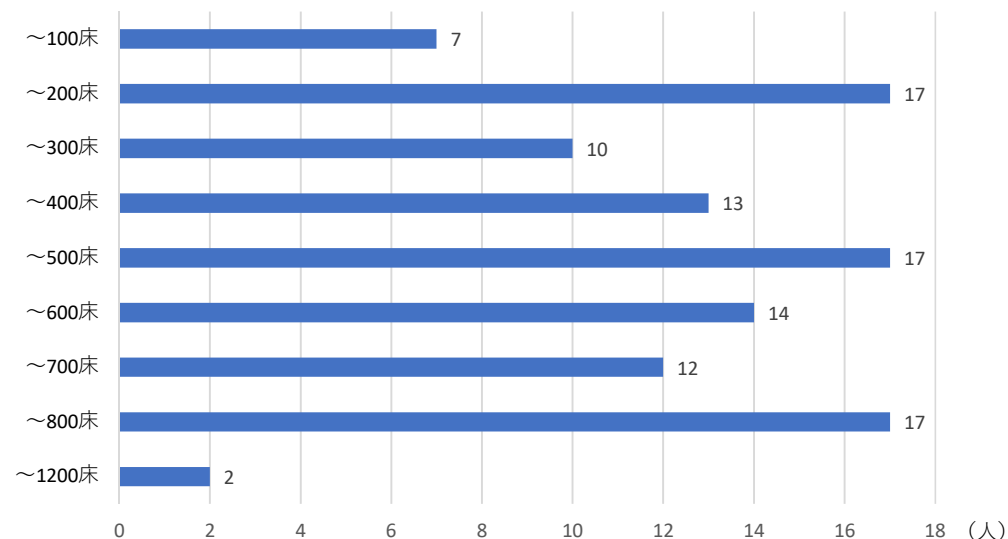
勤務状況 (病院勤務医のみ)

Q10.勤務先の病床の種類(n=112)



Q11.勤務先の病床数(n=109)

平均±SD 460.8±36.2 床



Q12.診療科の担当病床数	(人)	平均±SD
決まっていない	46	
決まっている	60	40.0±16.2床

Q13.同じ診療科の医師配置数 (人)	現在	理想
	平均±SD	8.3±8.7

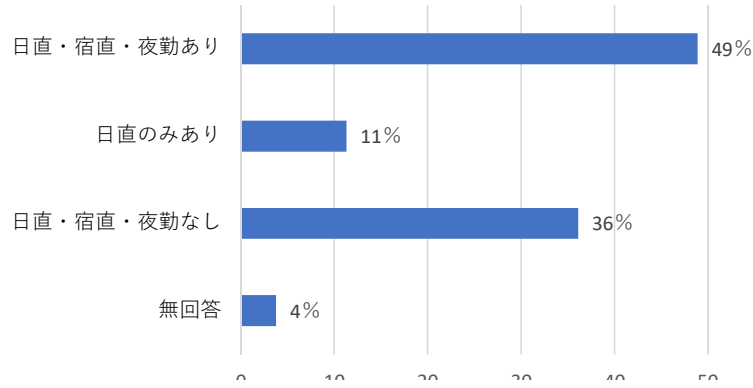
+1.9人

現在の医師配置数	現状からの理想増員数
1人 (n=12)	0.8人
2-3人 (n=17)	1.8人
4-5人(n=16)	1.3人
6-10人(n=22)	1.5人
11-16人(n=10)	3.0人
25-30人(n=8)	10.6人

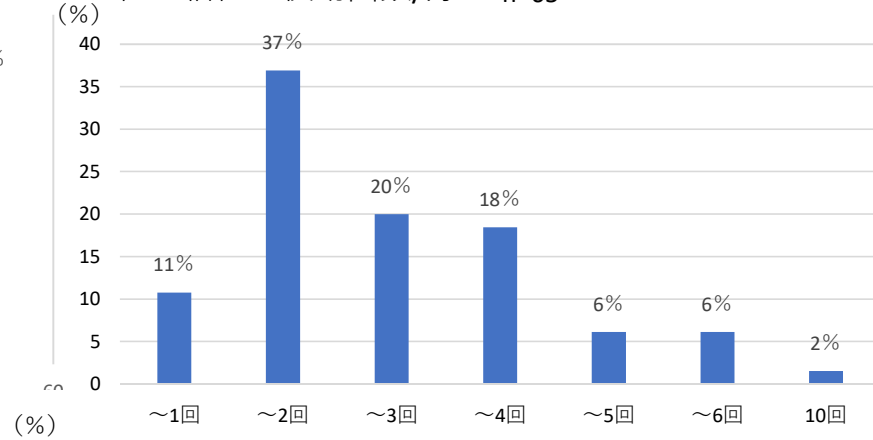
全体の理想配置数は現在から平均すると+1.9人だが、配置数別にみると3人までの少人数配置では倍程度の増員を望んでいた

勤務状況

Q15.日直・宿直・夜勤回数 n=133



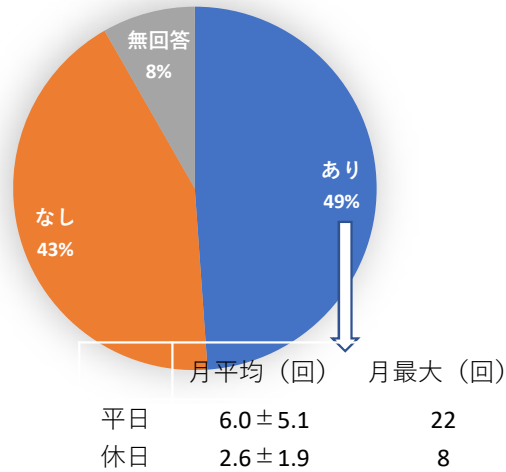
日直・宿直・夜勤回数/月 n=65



→ 週1回以上32%

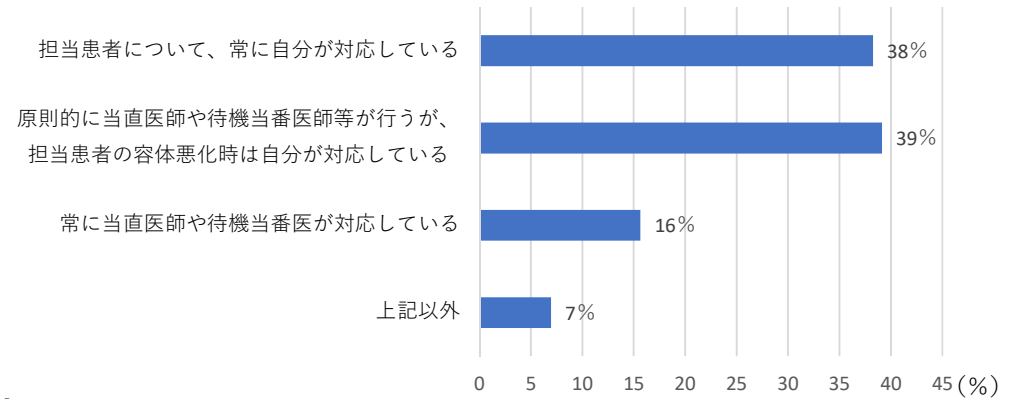
Q16.宅直・オンコール

n=133



Q17.入院患者に関する夜間・休日の電話対応

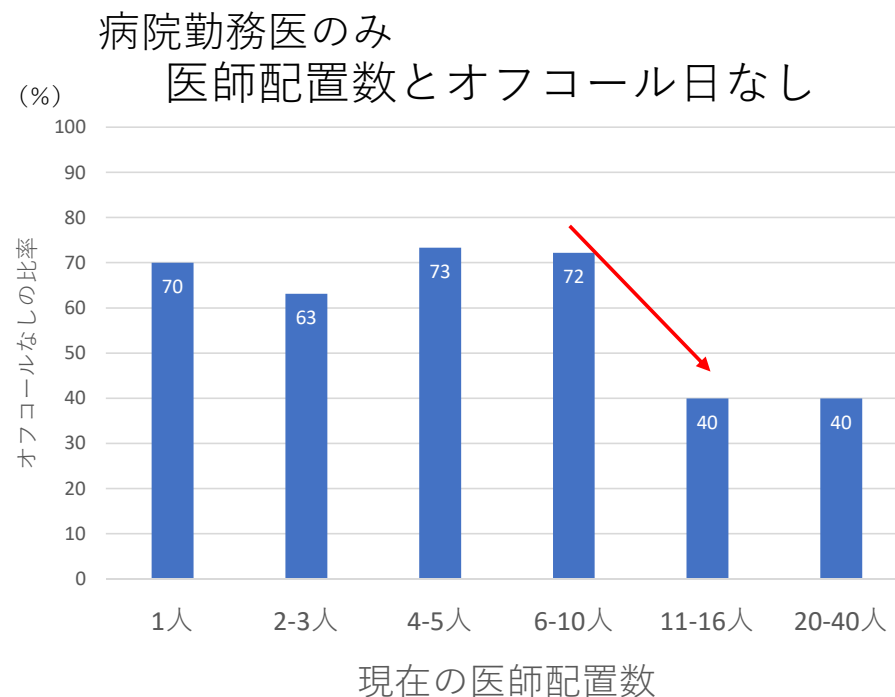
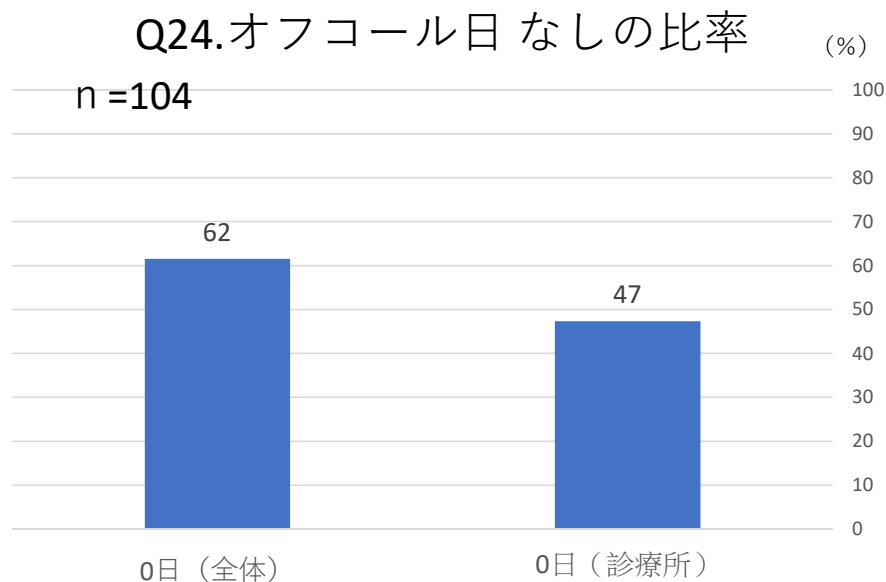
n=115



日直・夜間勤務は半数であり、このうち1/3で週1回以上の頻度であり

オンコールは半数であり、このうち携帯電話等連絡手段を常に所持しておかなければならない状況の回答者が約8割に達した

勤務状況-休養



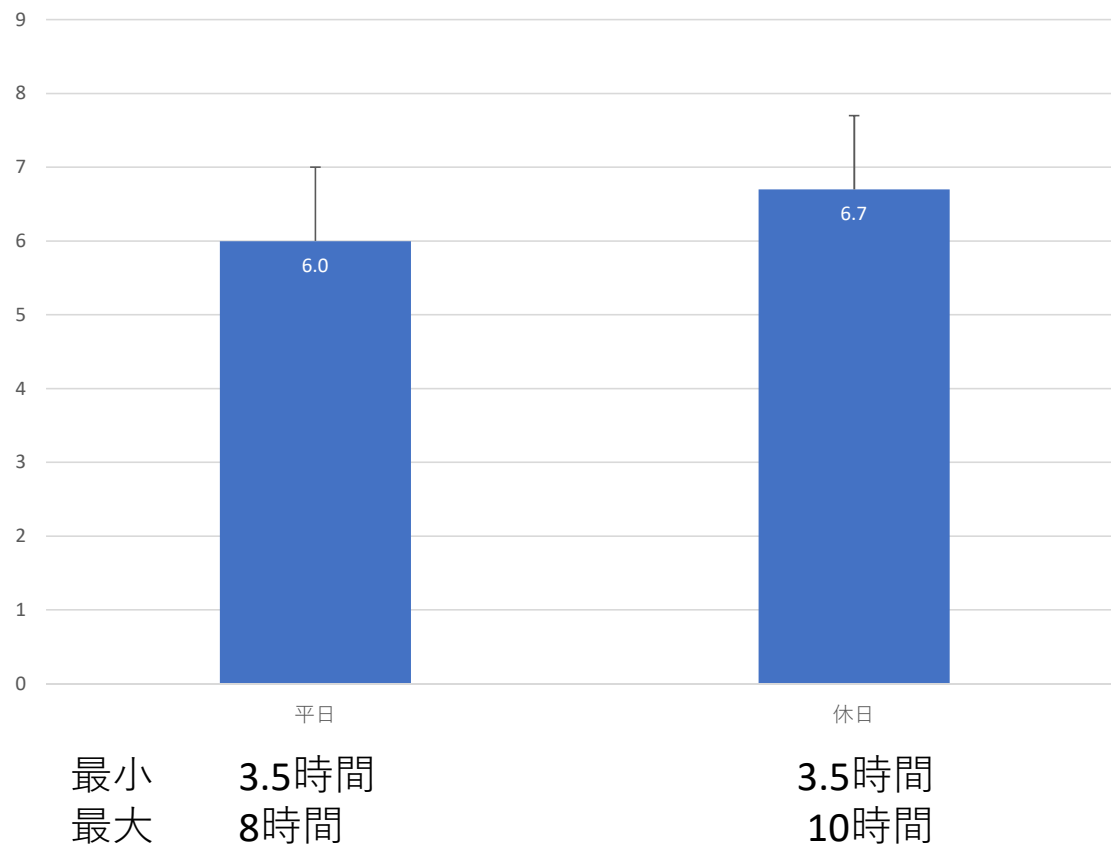
オフコールの日：業務上の連絡がなく、携帯電話等の連絡手段を持たなくていい日

**全体で携帯電話等の連絡手段を常に所持しなければならない状況の回答者が6割であった
病院勤務医に限ると、医師10人までの配置では7割に対し、11人以上では4割に減少していた**

勤務状況-休養

(時間)

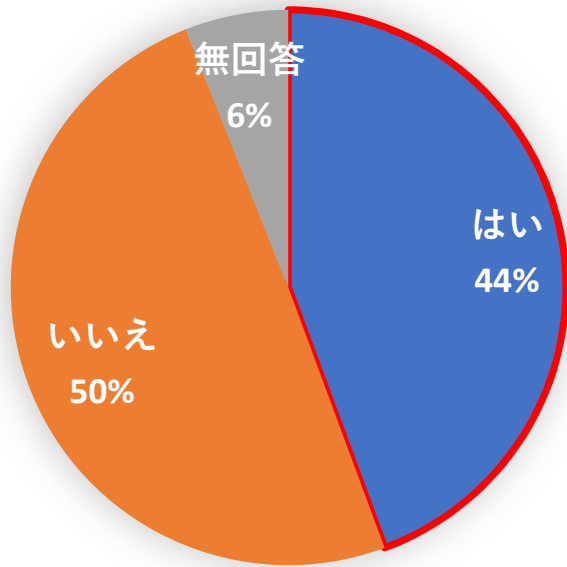
Q25.1日の睡眠時間 n=123



平日の睡眠時間は平均6.0時間と短く、休日に長くなっていた

勤務状況

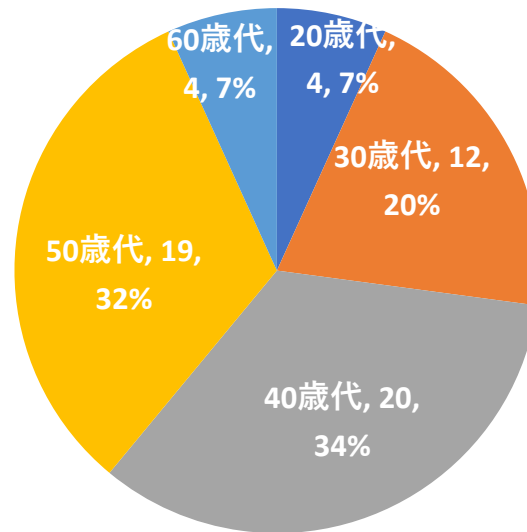
Q19.侵襲的治療の従事(n=133)



はいの内訳

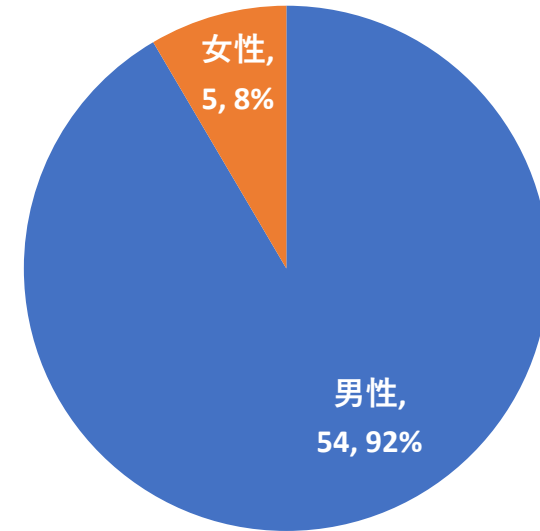


年齢分布(n=59)



平均年齢 ± SD: 45.7 ± 8.9歳

男女比(n=59)

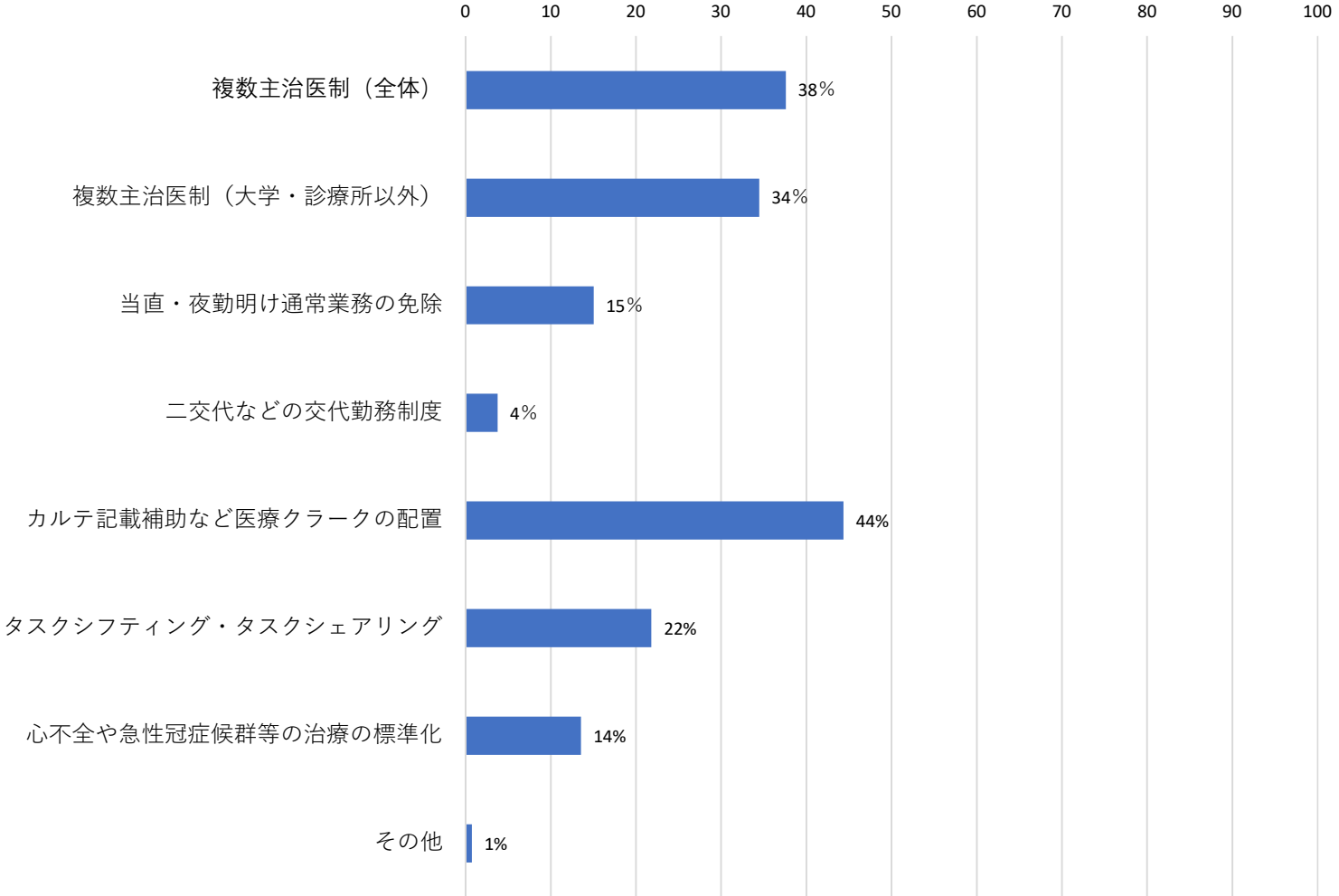


侵襲的治療の従事者が44%で、40歳代・50歳代が66%、男性が92%を占めていた

職務負担軽減策

Q23.現在導入されている職務負担軽減策（複数回答可）

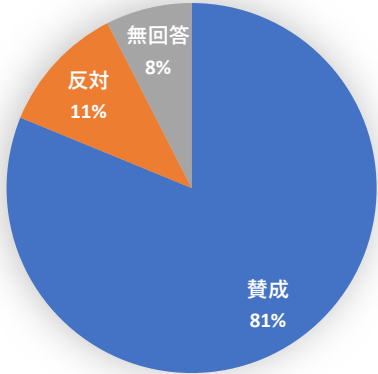
n=133



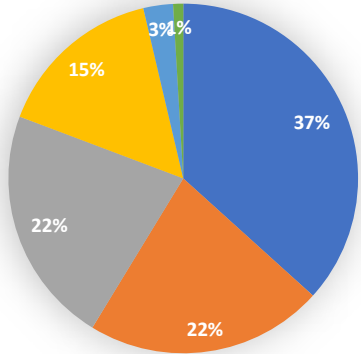
職務負担軽減策として挙げられている方策について、実際の導入は進んでいない状況であった

複数主治医制

Q26.複数主治医制の導入の賛否

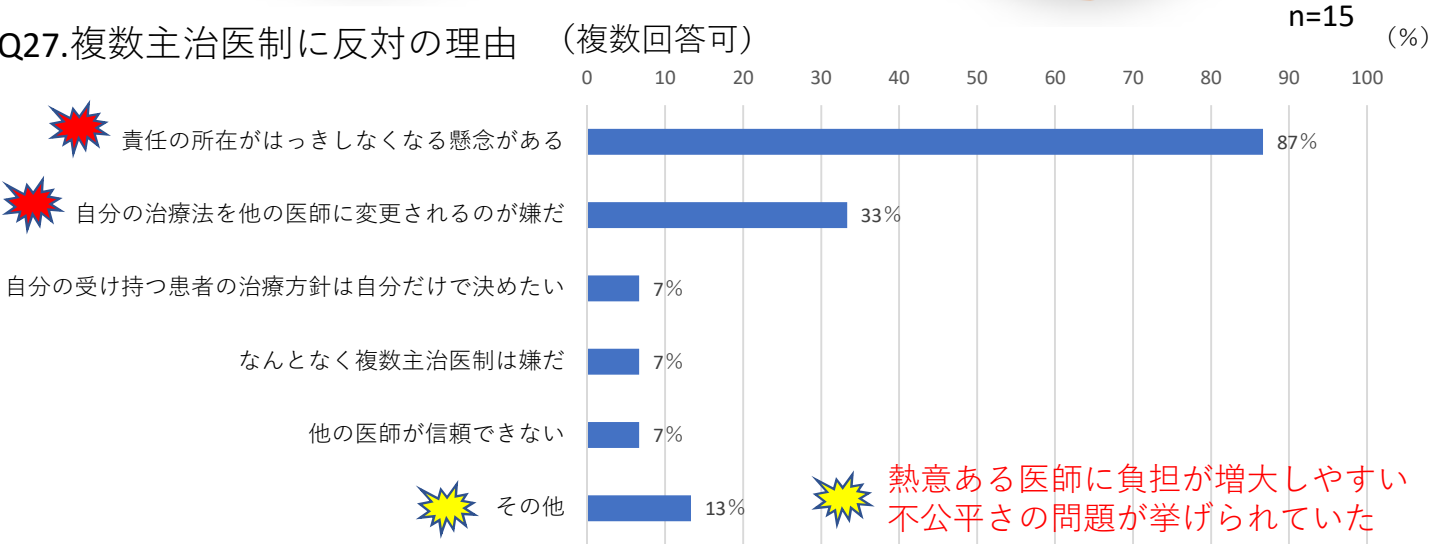


Q28.冠攣縮性狭心症に対するカルシウム拮抗薬の第一選択薬



- ベニジピン
- ニフェジピン
- ジルチアゼム
- アムロジピン
- シルニジピン
- アゼルニジピン

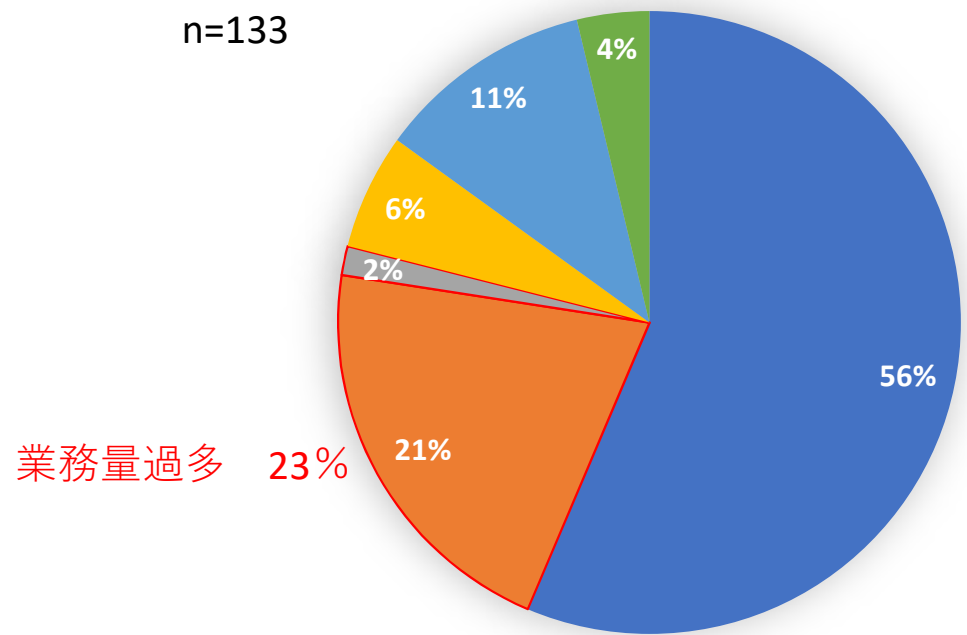
Q27.複数主治医制に反対の理由 (複数回答可)



外科系と比較し内科系では複数主治医制が進まないが、導入の賛成は8割と高率だった
 反対意見としては責任の所在がはっきりなくなる懸念が多く、他の医師に治療を変更されるのが嫌が1/3
 責任の所在の明確化と他医師による治療介入に対し寛容さも必要なのでは？

仕事と生活に関する意向 Q9.循環器領域の専門性と仕事内容について

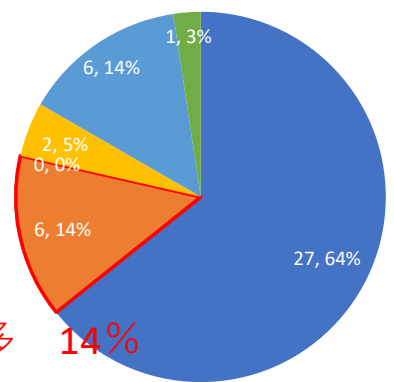
n=133



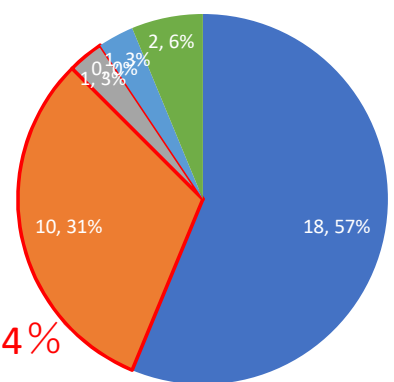
- 専門性を生かして仕事をしており、やりがいや充実感を感じ、現状に満足している。
- 専門性を生かして仕事をしており、やりがいや充実感を感じているが、もっと業務量が少ない方が望ましい。
- 専門性を生かして仕事をしているが、業務量が多すぎる等の理由で現在の職場を辞めたい。
- 専門性を仕事にあまり生かせていない。もっと専門性を生かした仕事がしたい。
- 専門性を仕事にあまり生かせていないが、現状で満足である。
- 無回答

病院勤務医のみ

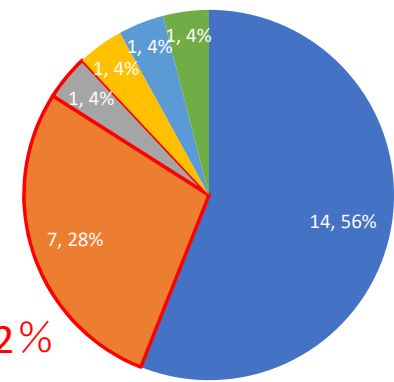
40-60時間/週(n=42)



60-80時間/週(n=32) 過労死ライン超



80時間超/週(n=25) 地域医療確保暫定特定水準超

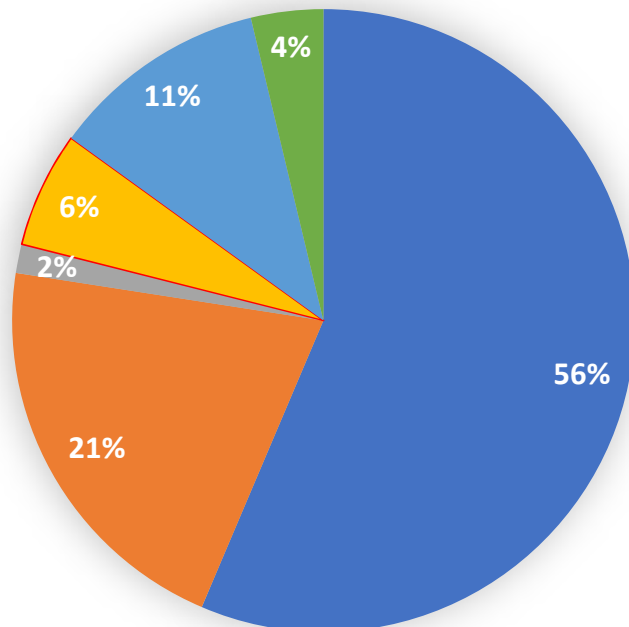


勤務時間が60時間/週を超えると業務量過多と感じている割合が増えるものの、6割近くが現状に満足していた

仕事と生活に関する意向 Q9.循環器領域の専門性と仕事内容について

n=133

専門性生かせていない不満 6%



- 専門性を生かして仕事をしており、やりがいや充実感を感じ、現状に満足している。
- 専門性を生かして仕事をしており、やりがいや充実感を感じているが、もっと業務量が少ない方が望ましい。
- 専門性を生かして仕事をしているが、業務量が多すぎる等の理由で現在の職場を辞めたい。
- 専門性を仕事にあまり生かせていない。もっと専門性を生かした仕事がしたい。
- 専門性を仕事にあまり生かせていないが、現状で満足である。
- 無回答

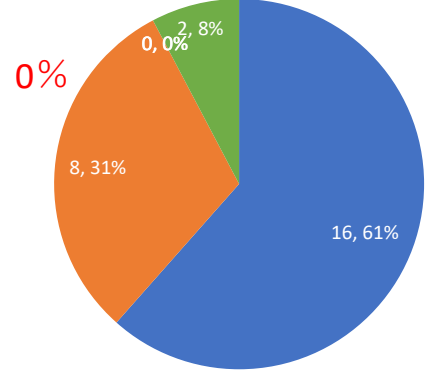
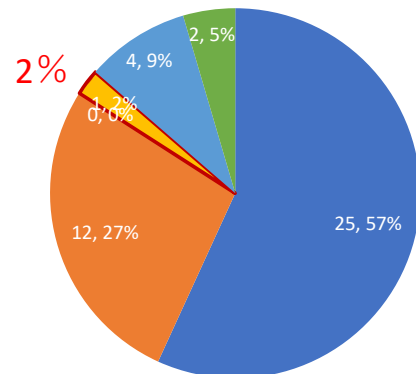
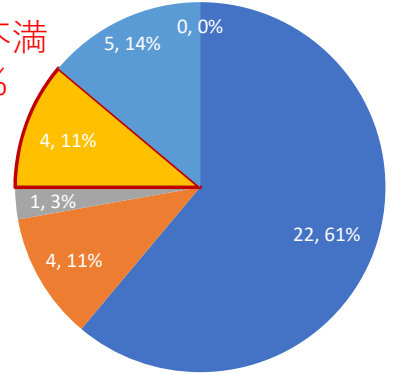
病院勤務医のみ

1-3人配置(n=36)

4-10人配置(n=44)

11人以上配置(n=26)

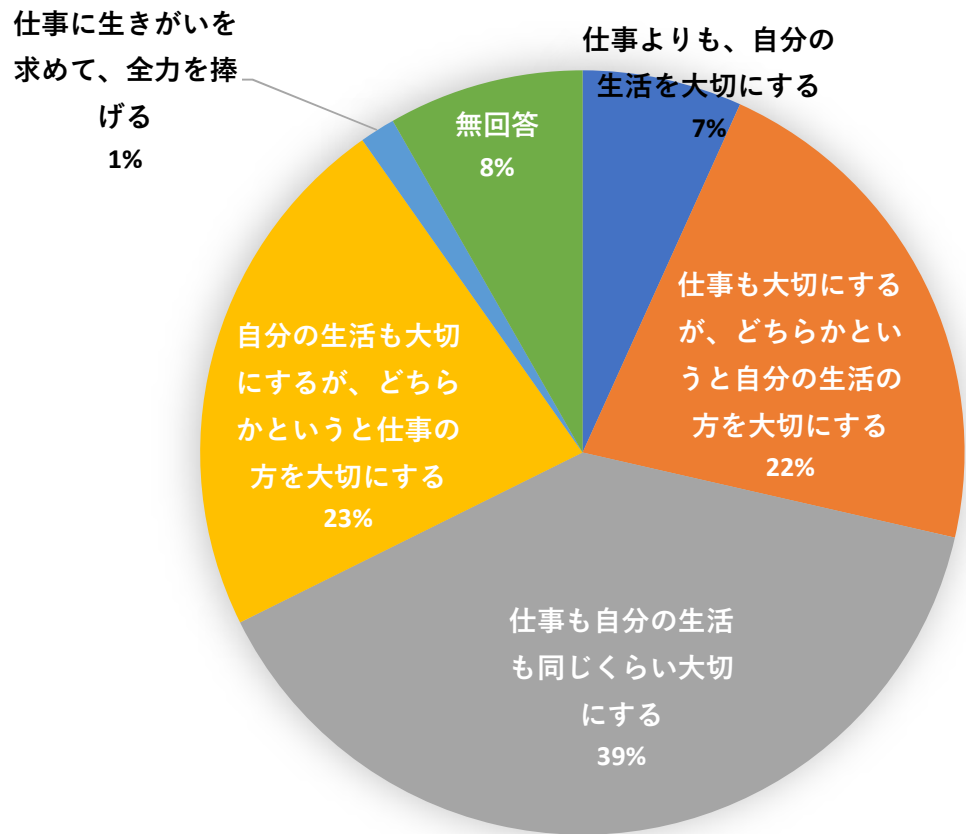
専門性生かせていない不満 11%



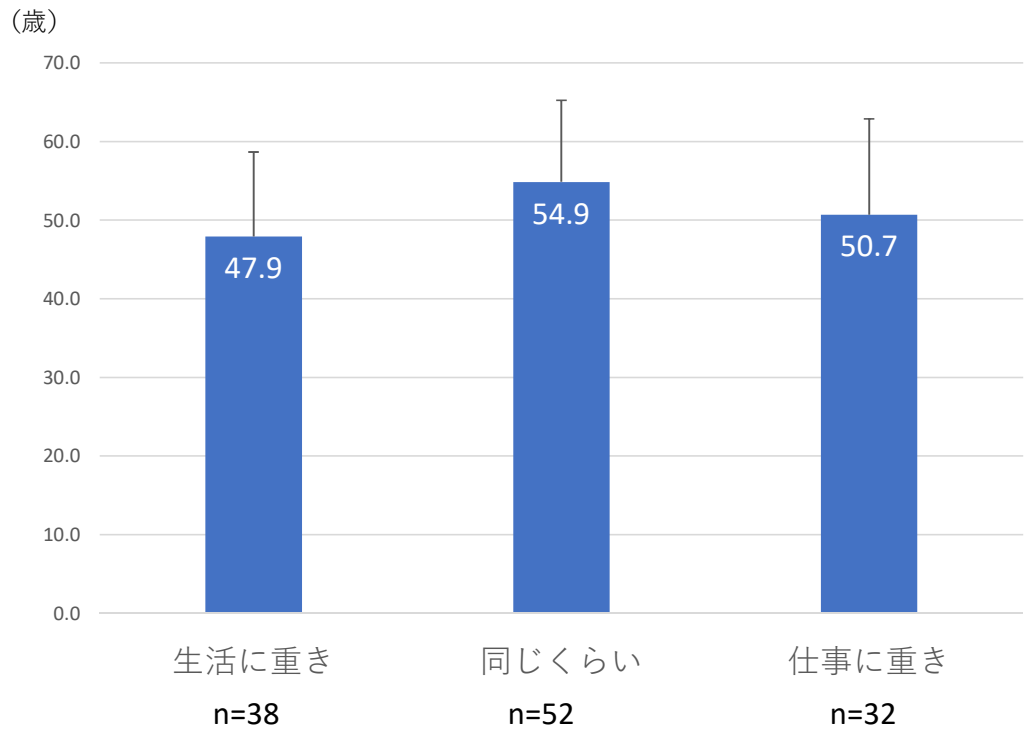
医師配置数の少ない病院では、専門性生かせていない不満が増えていた

仕事と生活に関する意向

Q29.仕事と生活の重きについて n=133



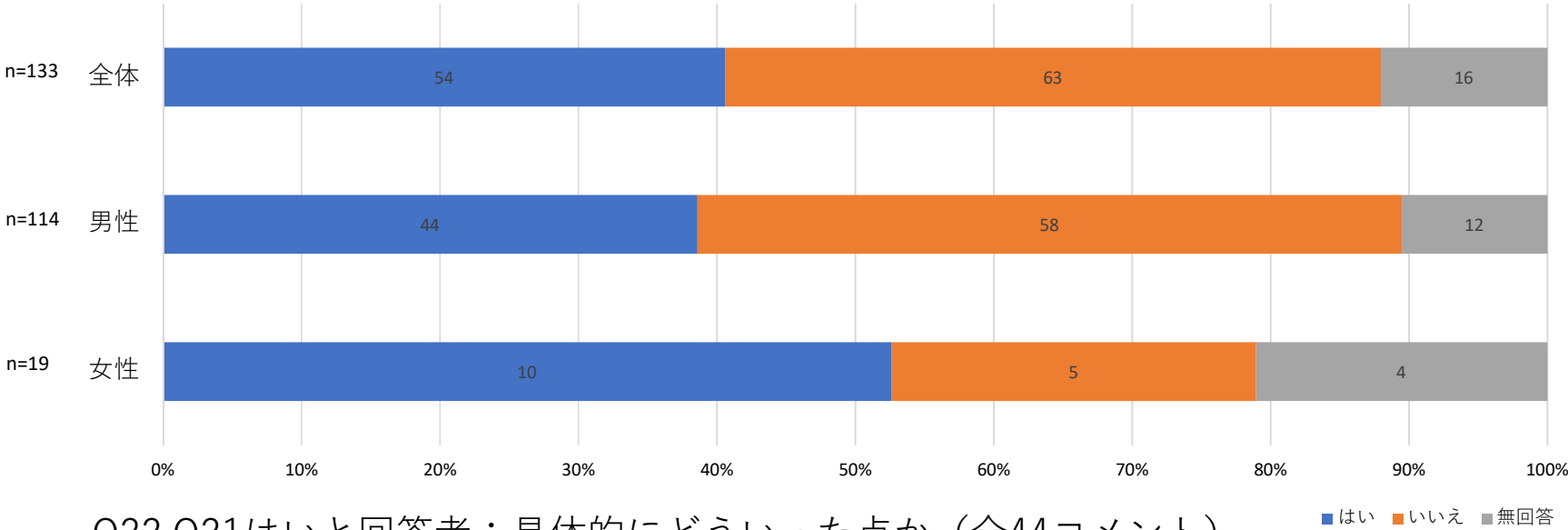
work life balance 平均年齢



仕事も生活も同じくらい大切にする回答者が4割と最も多く、平均年齢が最も高かった
仕事より生活に重きをおく回答者が3割で、平均年齢が最も低かった

仕事と生活に関する意向

Q21.循環器医・医療職を続けていく上での困難を感じたことがあるか



Q22.Q21はいと回答者：具体的にどういった点か（全44コメント）

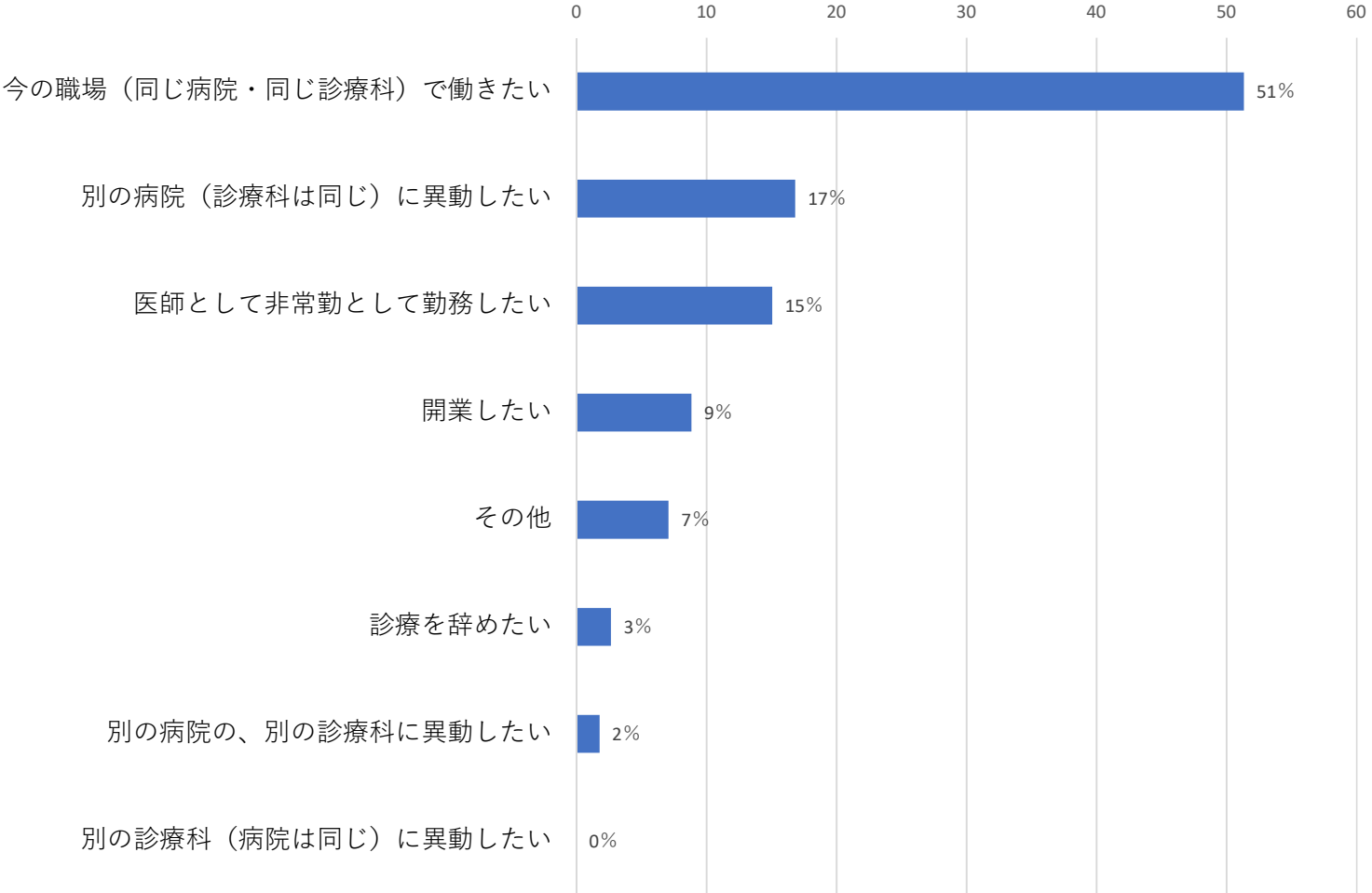
- 体力・気力の問題、老化・疾病（19コメント）
- 多忙、労働・拘束時間の長さ、当直の多さ、夜間救急対応の困難さ（12コメント）
- 知識や技術のup to dateの問題（5コメント）
- 出産・育児（3コメント）
- 事務仕事の多さ（2コメント）
- 若い医師の少なさ、後任の不在（2コメント）

**循環器診療を続けていく上で男性で4割、女性で5割困難を感じたことがあるとの回答
2018年女性会員対象郵送調査では6割であり、これと比べて低い結果であった**

仕事と生活に関する意向

Q14.将来の働き方の希望（複数回答有）

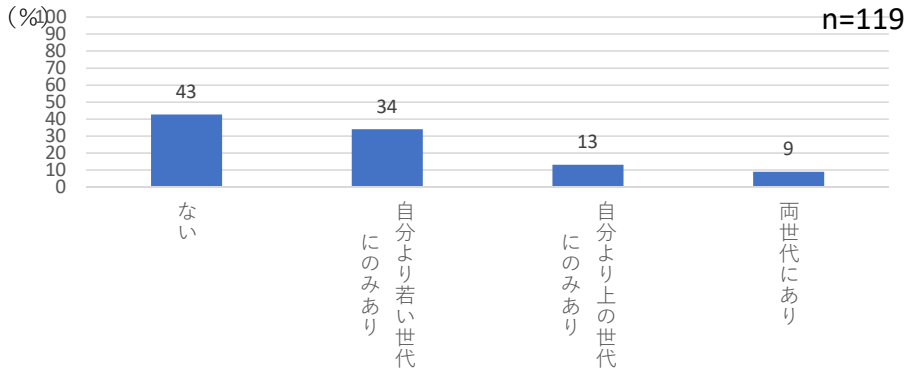
n=113 (%)



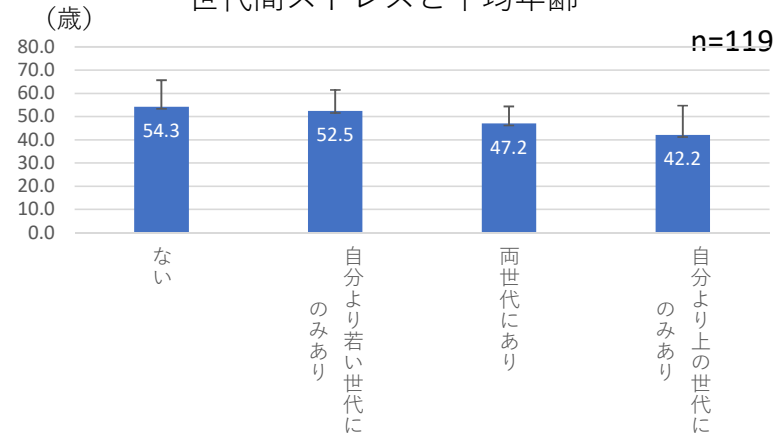
将来の働き方で今の職場で働きたいが半数である一方、異動や非常勤希望が1-2割みられた

世代間の問題

Q30. 世代間のワークライフバランス感覚の違い
によるストレスを感じることもあるか



世代間ストレスと平均年齢



Q31. (Q30でありの回答者) ストレスを感じる点 (複数回答可)

若い世代にのみあり

- ①勤務時間外、休日に働きたがらない (59%)
- ②仕事をしない (20%)
- ③仕事で長時間の拘束を強いられる (15%)
- ④休日や休憩をとることが難しい (12%)

両世代にあり

- ①仕事で長時間の拘束を強いられる (64%)
- ②休日や休憩をとることが難しい (45%)
- ③勤務時間外、休日に働きたがらない (45%)
- ④仕事をしない (45%)

上の世代にのみあり

- ①休日や休憩をとることが難しい (50%)
- ②仕事をしない (38%)
- ③仕事で長時間の拘束を強いられる (31%)
- ④勤務時間外、休日に働きたがらない (19%)

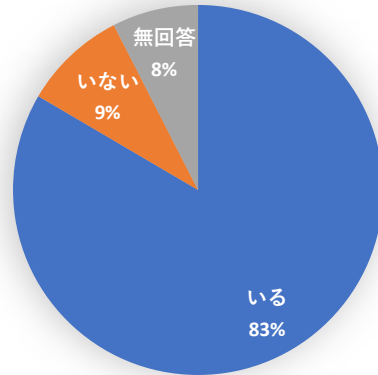
若い世代への不満としては、勤務時間外、休日に働きたがらないが、上の世代への不満としては休日や休憩をとることが難しいが最も多かった

若い世代のとりこみに向けては、休日・休息の確保をまず目指すべきではないか

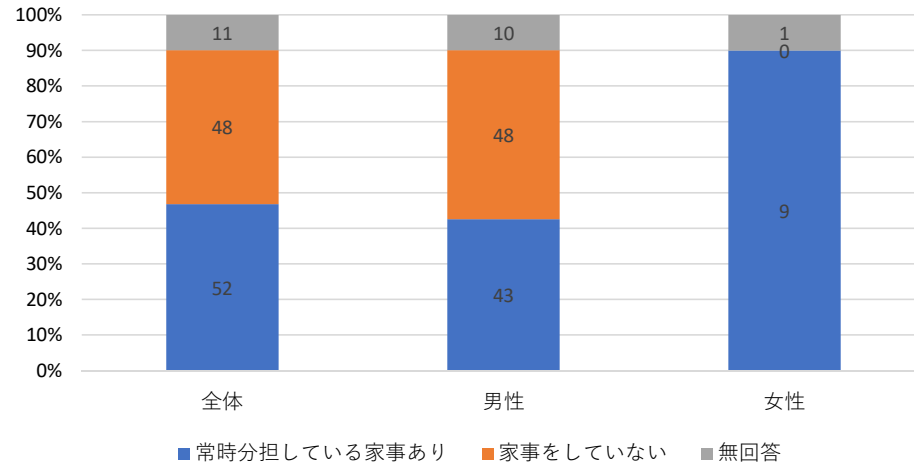
配偶者

Q32.配偶者の有無

n=133



Q33.配偶者いる方で、常時分担している家事 n=111



家事内容

男性 n=43

- 掃除 (12)
- 食器洗い・食事の後片付け (10)
- ゴミ出し (8)
- フロ掃除 (6)
- 子ども・ペットの世話 (5)
- 料理 (5)
- 家事全般 (4)
- 洗濯 (3)
- 庭仕事 (1)
- 買い物 (1)
- 布団の上げ下げ (1)

女性 n=9

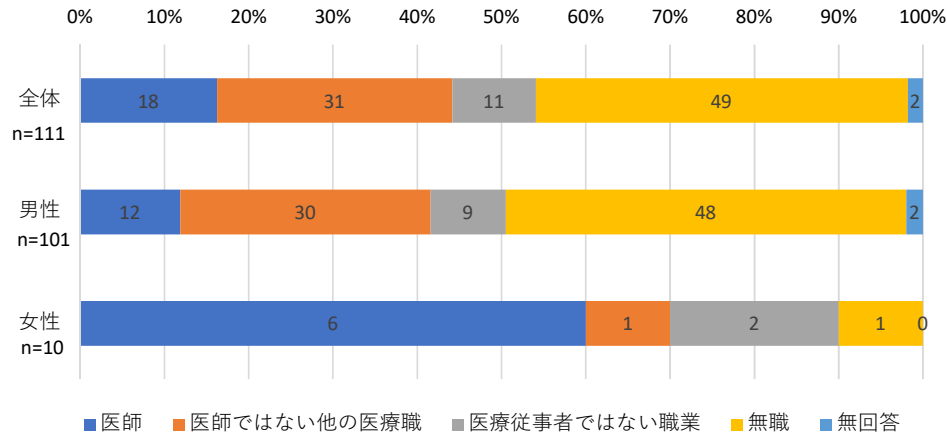
- 家事全般 (9)

配偶者ありが83%

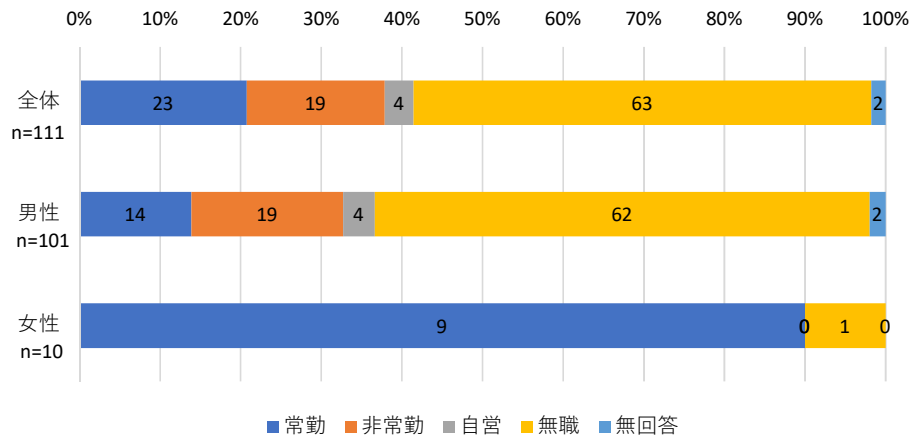
常時分担している家事について、家事全般を担っている女性と比較して、男性は4割と少なく、内容も限定的であった

配偶者

Q34.配偶者の職業



Q35.配偶者の勤務形態



Q36.配偶者が医師で良かった点・良くなかった点

男性

〈良かった点〉

- 理解がある・仕事の話がしやすい (7)
- 経済的余裕 (2)
- 仕事の分担 (2)

〈良くなかった点〉

- 自身の家事の手伝いが増える (1)
- 忙しい (1)
- 治療方針の相違、仕事に対する熱意、家事の問題 (1)

女性

〈良かった点〉

- 理解がある (3)

〈良くなかった点〉

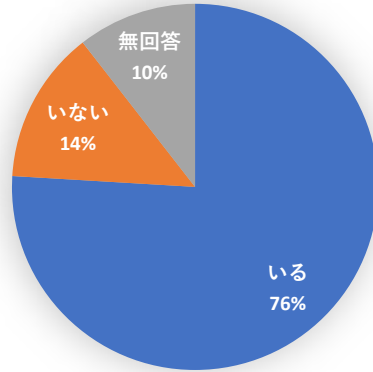
- 忙しくて家にいない (1)

男性はパートナーが6割無職であるのに対し、女性はパートナーのほとんどが常勤職で6割医師であった結婚により労働時間の長い勤務は、男性と比較し女性では困難な状況となりやすい

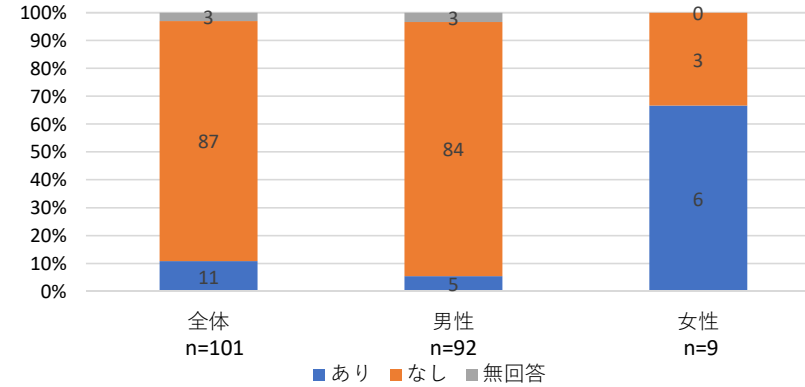
育児

Q37.子どもの有無

n=133



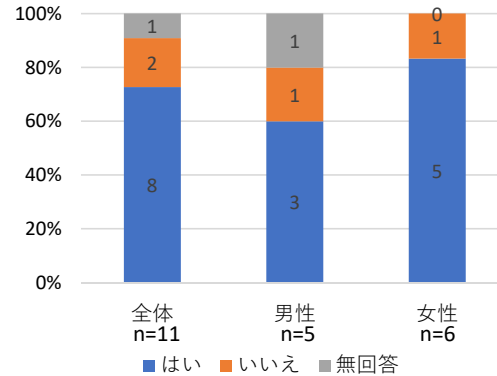
Q38.Q37で子ども有：育児休暇の取得



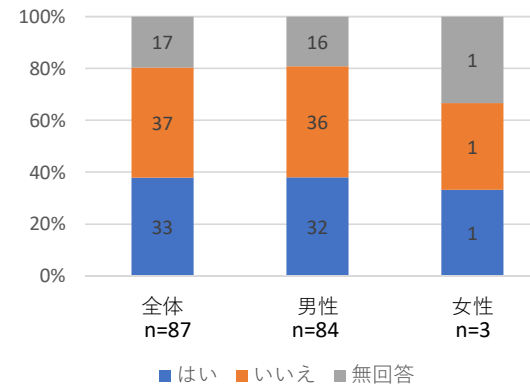
Q39.育児休暇取得最長日数

男性	女性
1日	1か月
7日	1か月
14日	10か月
	1年
	1年
	5年

Q40.育児休暇を取得してみ
てよかったか



Q41:Q38育児休暇を取得したことがな
い方：育児休暇を取得した
い、してみたかったか

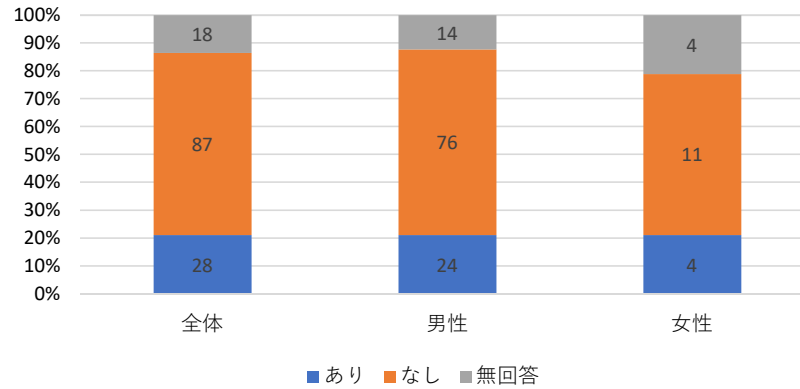


子どもありが76%

男性の育休取得はほとんどなく、女性でも取得なし・短期間が過半数みられた
男性で育休取得希望が4割あり

介護

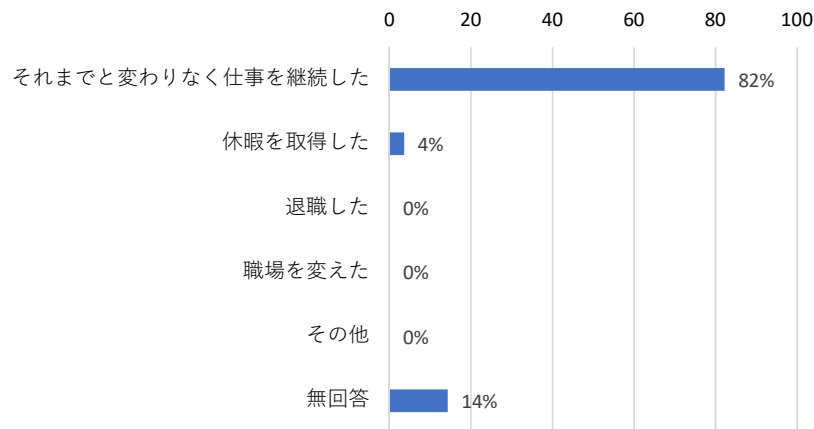
Q42. 家族の介護を担ったことがあるか n=133



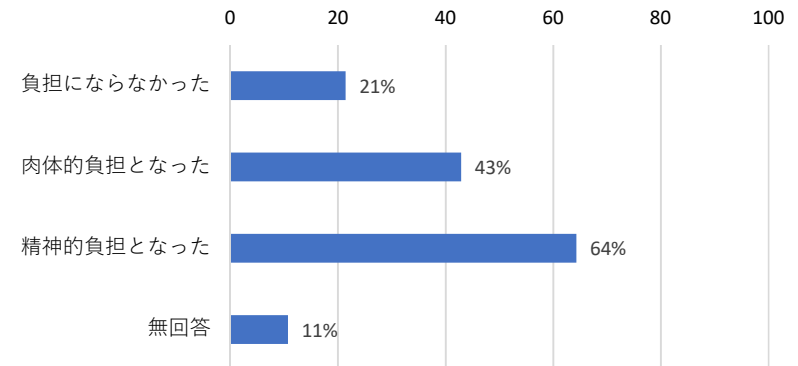
Q43. 介護に費やした時間 n=28

平均 ± SD 9.1 ± 10.9 時間/週

Q44. 介護時の就業について n=28 (%)



Q45. 介護負担 (複数回答可) n=28 (%)



介護経験者は2割、性別による差がなかった
介護による勤務形態の変更はなく、多くの回答者で精神的・肉体的負担となっていた

シニア世代

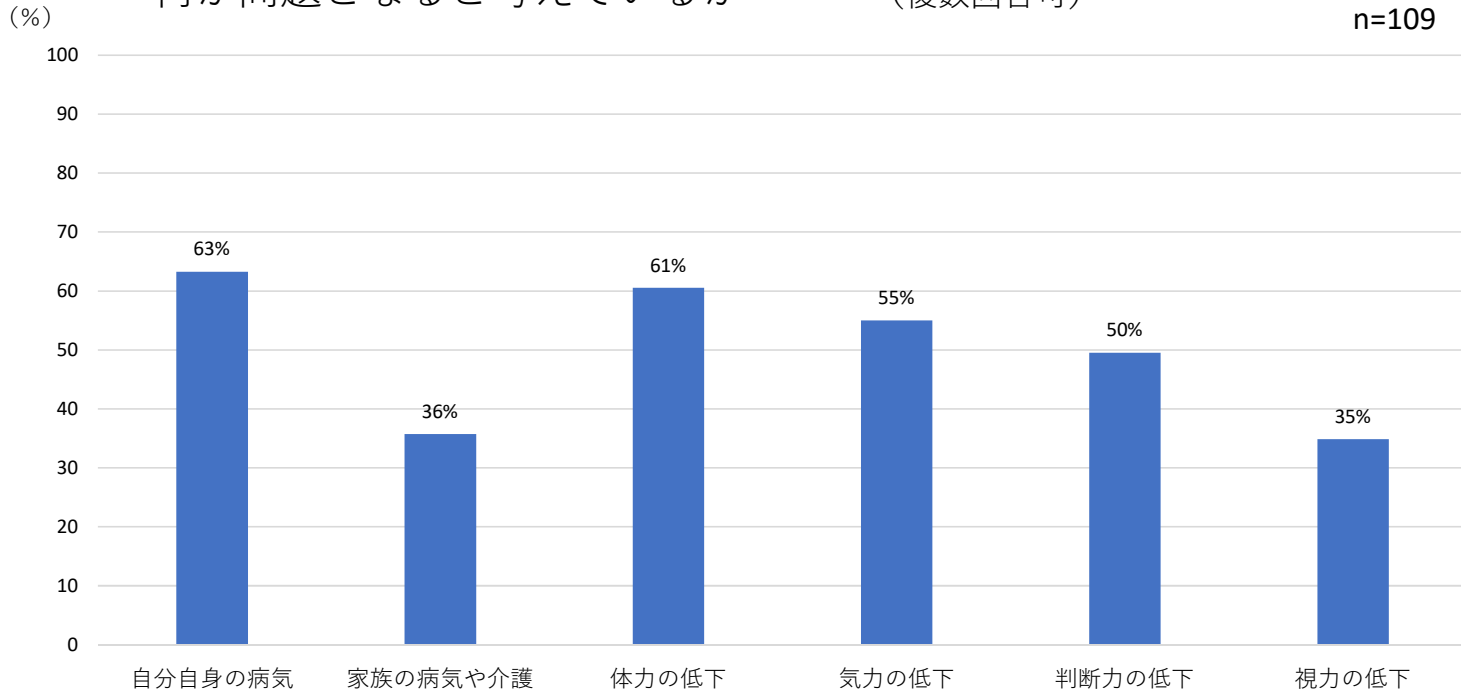
Q46.医療職として何歳まで働きたいか n=109

平均±SD: 71.4±7.5 歳

Q47.希望する年齢まで働き続ける上で、
何が問題となると考えているか

(複数回答可)

n=109

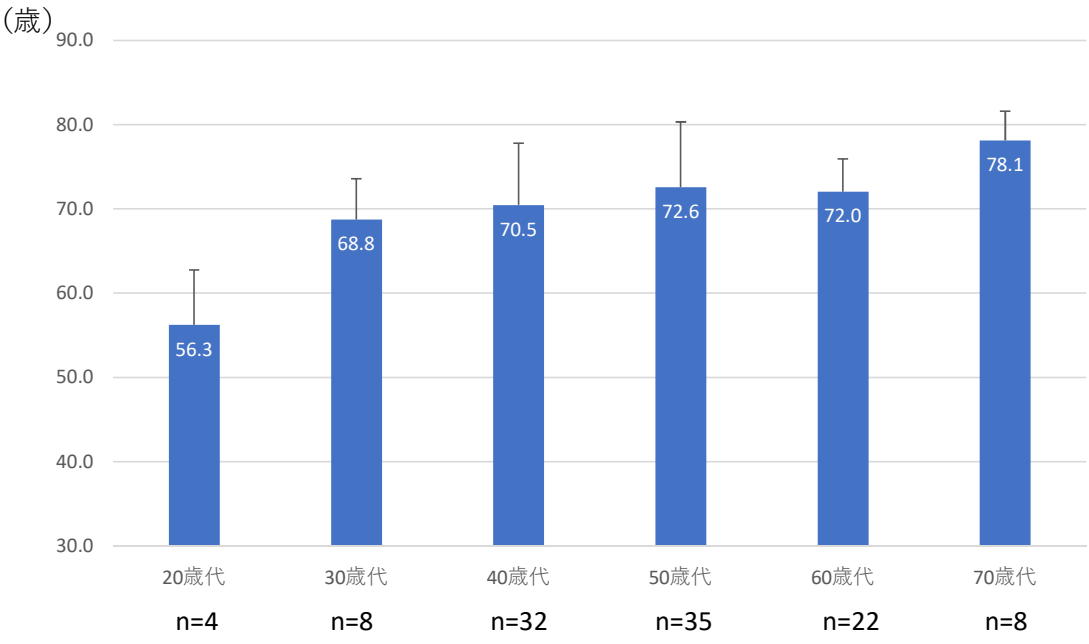


就労希望年齢は平均71歳、自身の病気が問題となるとの回答が最も多かった

シニア世代

Q46.医療職として何歳まで働きたいか n=109

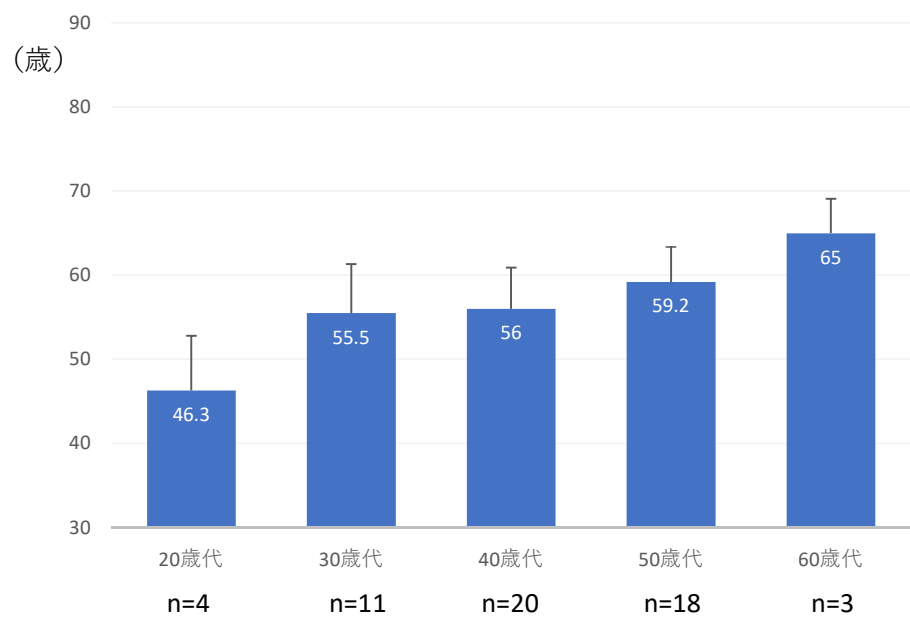
平均±SD：71.4±7.5 歳
就労希望年齢



多重比較検定
 20歳代vs40歳代：p=0.037 30歳代vs70歳代：p=0.049
 20歳代vs50歳代：p=0.032 60歳代vs70歳代：p=0.022
 20歳代vs60歳代：p=0.016

Q20.現在侵襲的治療に従事されている方：
侵襲的治療従事可能と考える上限年齢 n=56

平均±SD：56.7±6.2歳
侵襲的治療従事可能と考える上限年齢

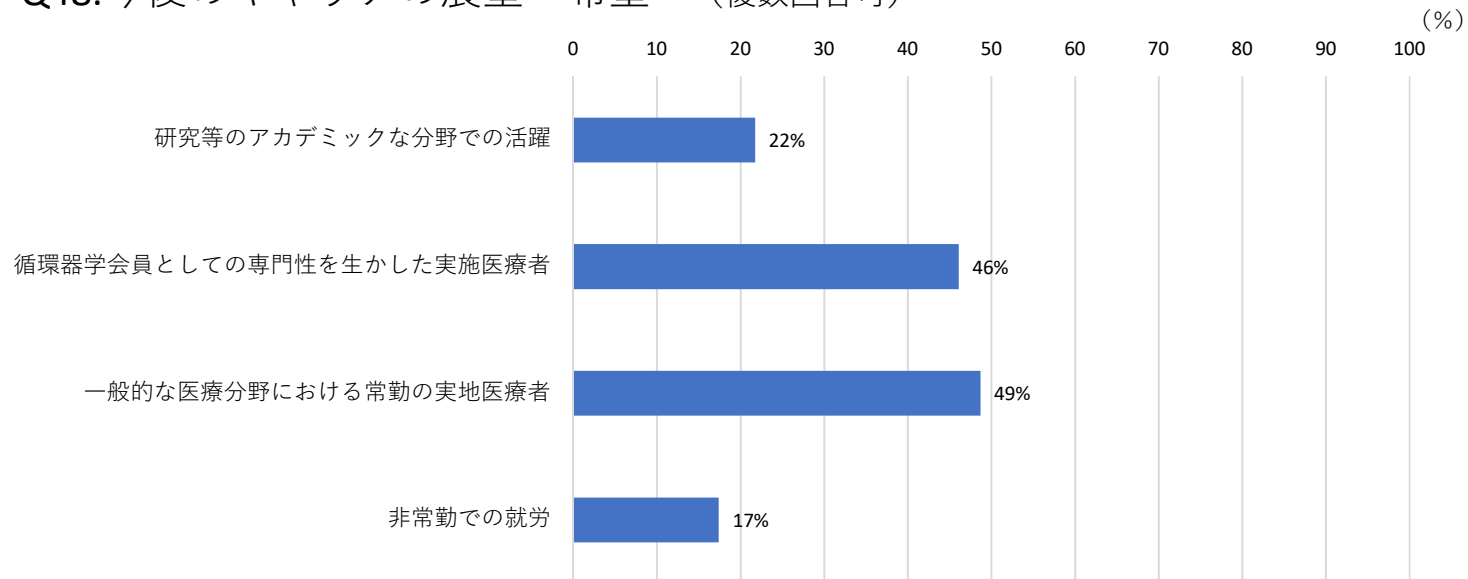


20歳代vs50歳代：p=0.011

**就労希望・インターベンション可能年齢について、年齢が高くなるにつれ上昇する傾向あり
医療職不足が懸念される中、シニア世代の働き方も重要なテーマ**

Q48. 今後のキャリアの展望・希望 (複数回答可)

n=115



Q49. ダイバーシティ推進委員会企画で今後扱ってほしいと望むこと (4コメント)

更に多様な演者で
若手のキャリアアップ
子育てとキャリアの両立について
非常勤医のドクターバンクなどの制度の試み